

生誕 150 年

徳島文壇の開拓者

井上羽城

いの うえ う じょう



萬巻の書やけつきて石門とまき垣のみそのこりたるはや

「萬巻の書やけつきて石門とまき垣のみそのこりたるはや」 直筆短歌

2021年 11月 3日 | 水・祝 |
～ 2022年 1月 16日 | 日 |

- | 開館時間 | 9:30～17:00
- | 休館日 | 月曜日(1月10日は開館し、翌日休館)
年末年始(12月28日～1月4日)
- | 会場 | 3階 文学常設展示室
- | 観覧料 | 一般 310円 (250円)
高校・大学生 200円 (160円)
小・中学生 100円 (80円)
*()内は、20人以上の団体割引料金。
高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。
「とくしま文化推進期間」(11月3日～21日)は無料。
小・中・高校生は、土・日・祝日と秋・冬休み期間中は無料。

井上羽城(本名・はじめ一、1871-1947)は、福井県に生まれ、東京で文学を学んだのち、明治30年、新聞記者として徳島に来県。徳島新報(現・徳島新聞)や徳島毎日新聞(同)において文芸欄の創設と普及に努めたほか、自らも小説や詩、短歌、俳句などを発表しました。その深い学識と高潔な人柄で多くの人から慕われ、徳島文壇の指導的、啓蒙的役割を果たしました。生誕一五〇年にあたり、徳島の文化と文学の発展に寄与した羽城の業績を、著作物や直筆原稿、愛用品とともに紹介します。また、羽城と交流のあった落合直文、野口雨情ら著名人たちからの書簡なども併せて展示します。